



非は、で、鳥が両翼を開いた形を表わしたものです。翼が左右反対に向いているというので、“反対”または“否定”する意味を表わしたものです。音は“背く”意味

の背ハイです。つまってヒとも読みます。また、“いけない”“悪い”という意味にも使われます。

扉は、“左右反対に開く戸”という意味の字で、“観音開きの戸”が本義の字です。片開きの戸なのに、「扉」の字を使っているのをよく見かけますが、それは、扉を単なる“とびら”の意味に誤解しているためです。音は非ヒです。開扉。自動扉。

排は、“反対”の意味の非に手を加えて、“反対側に押しつける”という意味を表わしたものです。音は非ハイです。「排斥」「排除」「排撃」などと使います。また、「排気」「排水」のように“外に出す”意味に使います。バレーボールを「排球」というのはうまい訳語ではありませんか。

誹は、“非難して言う”という意味の字です。“そしる”ことです。「誹ボウ謗」などと使います。この非は、“悪い”という意味の非です。

俳は、“非人(人でなし)”という意味の字です。昔、乞食こじき(食べ物を乞

い歩く人という意味のことば)のことを“人でなし”という意味で“非人”と言いました。また、昔は舞台役者を軽蔑して“川原乞食”と言いました。つまり、「俳優」というのは“非人”という意味のことばだったのです。音は非ハイです。

「俳徊」というのは、乞食のように、“うろつきまわる”というのが本義ですが、今は“そぞろ歩き”というように、高尚な意味のことばに使われています。「徊」は、人が歩き回るという意味の字です。

俳は、わが国では「俳諧」に関係して、俳句、俳人、俳画などに使われています。

徘徊は、「俳徊」の意味のために、あとから作られた字です。つまり、イの代りに、“歩く”意味の彳を使ったもので、今では、「徘徊」は、「徘徊」と書かれることが多いようです。

霏は、俳が人であって人でないように、“雨であって雨でない”ものを表わしています。つまり“きり(霧)”や“もや(靄)”のことです。また、非ヒは飛ヒと同音なので、“雨や雪が風に吹かれて飛ぶ”意味にも使われます。雨(雪)が霏々と降る。

匪は、箱(匚)であって、箱でない“はこ”という意味の字です。匚は、“はこ”の意味の部首です。“はこがまえ”と言います。普通、箱と言えば方形をしています。匪は、“円形のはこ”のことです。それで、箱でない箱という意味で非と匚とでこれを表わしたものでしょう。匪は、「匪賊」など、非の意味で使うことが多いので、はこの匪のために竹を付けて「筐」という字を作りました。

輩は、“車が押しのかげ合うようにぎっしりとならんでいること”、つまり“多くの車”というのが本義の字ですが、今は、全く車に関係なく、“多くの人”という意味で“仲間”の意味に使われています。音は<sup>ハイ</sup>非です。同輩。先輩。後輩。

斐は、模様の意味の文と非との会意形声字で、“ぎっしりと並べられた模様”という意味の字です。“美しい”“あや(模様)”という意味に使われ、人の名前にもよく用いられるものです。

悲は、心の中でこうありたいと願っていることと反対の結果になって悲しい、という意味で“かなしい”という気持を表わした字です。

悱は、悲と全く同じ部首で作られた字です。心に思っていることが、思うように言うことができないで“いらだつ”という気持を表わした

字です。同じ「亡(うしなう)」と心とで、「忙(いそがしい)」と「忘(わすれる)」とを作ったのと全く同じ例で、同じ材料を使って作っても、味わいの違ったものができるものですね。悲も悱も、音は<sup>ヒ</sup>非です。

論語に「憤せずんば啓せず、悱せずんば発せず」とあります。憤は、思うことが心に溢れるほどあって、おさえ切れないことで、悱と同じく、うまく心の中が言い表わせないでいらだつことです。孔子は、弟子たちの学習状態がそういう状態にまで達しなければ教えなかったということです。これが「啓発」ということばの起こりです。

菲は、かぶに似た「ヒ」と呼ぶ野菜のことです。非と草の形声字です。「菲食」は菜食の意味で、粗食であることを表わしたことばです。また、「浅学菲才」などと自分の才能を謙遜して言うのに使います。

緋は、色を表わす部首の糸と非との形声字で、ヒという色のことです。色には、<sup>コウ</sup>工という色の紅、<sup>コン</sup>甘という色の紺、<sup>ロク</sup>帛という色の緑、<sup>シ</sup>此という色の紫など、糸との形声字が多くあります。